DocuCentre 401/351/251シリーズ DocuPrint 401

HP-GL エミュレーション設定ガイド

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX

はじめに

このたびは、富士ゼロックスの製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401のHP-GLエミュレーションについて記載しております。
製品の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、本書をお読みください。

2001年12月
富士ゼロックス株式会社

目　次

マニュアル体系について

DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401のマニュアルの種類と概要について説明します。

マニュアルの種類

この製品に関して、次の種類のマニュアルを用意しています。

本体同梱マニュアル

プリンター本体に取扱説明書が同梱されています。この取扱説明書では、設置、設定/操作方法などを説明しています。

CentreWareのCD-ROM内のPDF/Docuworks文書マニュアル

同梱のCD-ROM内に、本プリンターをエミュレーションモードで使用する方法を説明している、PDF/Docuworks文書のマニュアルが入っています。

CentreWareのCD-ROM内のマニュアル(HTML形式)

同梱のCD-ROM内に、本プリンターをネットワークプリンターとして使用しする方法を説明している、HTML形式のマニュアルが入っています。

オプション製品同梱マニュアル

プリンター本体のほかに、専用の別売品を用意しています。このプリンター専用の別売品には、設置手順書が同梱されています。
設置手順書では、オプション製品の取り付け手順を説明しています。

商品マニュアル

マニュアル単体で製品となっているものがあります。これを商品マニュアルと呼びます。リファレンスマニュアル(ARTⅣ対応)などがあります。
商品マニュアルは、本体やオプション製品には同梱されません。必要に応じてマニュアルだけを購入してください。
商品マニュアルでは、プリンター(プロッター)制御言語のコマンドや、ソフトウェアのインストール手順などを説明しています。

本書の読み方

ここでは、本書の対象読者、マニュアルの種類、本書の構成について説明します。

前提知識

本書は、HP-GL・HP-GL/2エミュレーションを使ってプリンターを使用する時に読んでいただきたいマニュアルです。
本書の内容は、『DocuCentre 401/351/251シリーズ取扱説明書(プリンター編)』または『DocuPrint 401取扱説明書』と、お使いのパーソナルコンピューターの環境やネットワーク環境の基本的な知識があり、理解されていることを前提に説明しています。
お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムに付属の説明書をお読みください。

本書の構成

本書の各章の内容は次のとおりです。

第1章　エミュレーションを使用するには

対応しているHP-GLエミュレーションについて説明しています。

第2章　HP-GLモードの設定

対応しているHP-GLエミュレーションモードを使用するときの、プリンターの設定について説明しています。

第3章　HP-GLモード関連資料

HP-GL・HP-GL/2エミュレーションモードを利用するときに参考になる情報を記載しています。印刷領域、リセット時の状態、オートレイアウトについて説明しています。

本書の表記

① 本文中では、説明する内容によって、次の用語を使用しています。

注記　注意すべき事項を記述しています。

補足　補足事項を記述しています。

参照　参照先を記述しています。

② 本文中の「ホスト装置」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。

1章

エミュレーションを使用するには

1.1 エミュレーションについて

DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401で使用できるプリント言語のHP-GL・HP-GL/2エミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則(文法)に従ったデータになっています。DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401では、この規則(文法)をプリント言語といいます。

DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでの印刷結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類することができます。なお、他のプリンターでの印刷結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

1.1.1 エミュレーションモード

DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401が対応するページ記述言語以外のデータを印刷するときは、DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401をエミュレーションモードにします。DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401には、複数のエミュレーションモードがあります。その中のHP-GL・HP-GL/2エミュレーションモードと、エミュレートするプロッターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプロッター
HP-GLエミュレーションモード(HP-GLモード)	HP 7586BまたはDJ750C Plus
HP-GL/2エミュレーションモード(HP-GL/2モード)	HP DesignJet750C Plus

HP-GLモードの場合は、送られてくるデータによって、HP-GLモード、HP-GLモードとHP-RTLを切り替えます。
HP-GL/2モードの場合は、HP-GL/2およびHP-RTL固定となります。

1.1.2 ホストインターフェイスとエミュレーション

ホストインターフェイスごとに、対応するプリント言語は異なります。プリント言語に対応しているホストインターフェイスは、次のとおりです。

- パラレルポート
- NetWareポート
- lpdポート
- SMBポート
- IPPポート

1.1.3　プリント言語の切り替え

DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

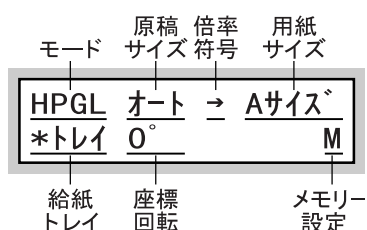
自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

インターフェイス従属

操作パネルを使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

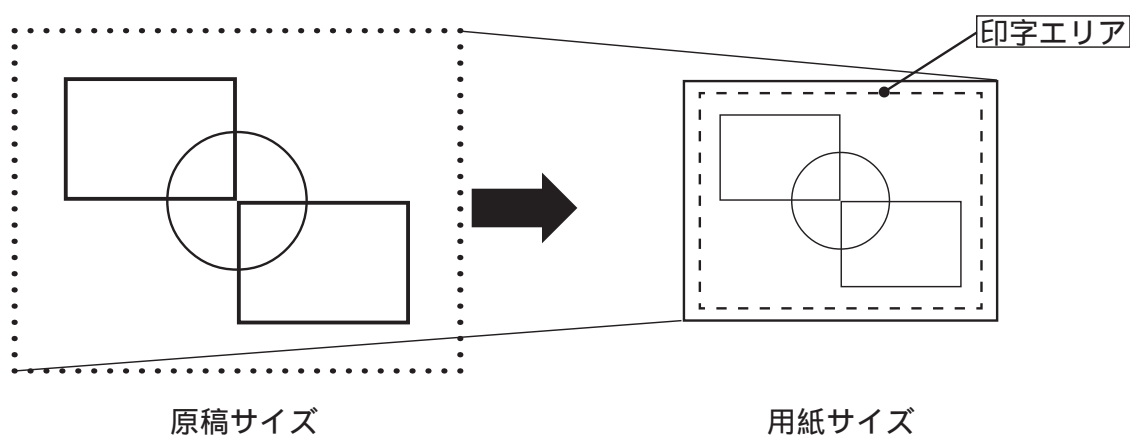
1.1.4　モードメニュー画面

エミュレーションのHP-GLモード固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、〈モード〉を押してください。次のようになります。

参照

モードメニュー画面については、「第2章　HP-GLモードの設定」を参照してください。

1.2 工場出荷時の設定

工場出荷時の、HP-GL、HP-GL/2エミュレーションモードの設定では、以下のように印刷を行うことができます。以下のように工場出荷時の設定では、用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大し印刷(オートレイアウト)するように設定されています。

原稿：オート、原点：オート、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON

補足

必要に応じて工場出荷時の設定を変更してください。設定変更については、「第2章 HP-GLモードの設定」を参照してください。

1.2.1 オートレイアウト描画時の制限事項

プリンターに内蔵増設ハードディスクが装着されている場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはハードディスクに格納されます。

プリンターに内蔵増設ハードディスクが装着されていない場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはフォームデータメモリーに格納されます。フォームデータメモリーの初期値は128KBです。よって、128KB以上のプリントデータを受信した場合、プリントデータを正しく印刷できません。この場合は、プリンターの操作パネルを使ってフォームデータメモリーの容量を変更してください。ただし、フォームデータメモリーの上限は、5120KBです。よって、5120KB以上のプリントデータを受信することはできません。
オートレイアウト機能を使用する場合は、プリンターにハードディスクを装着することをお勧めします。

1.2.2　ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズがAサイズに設定されており、少しでも印刷データが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさのA系列サイズに(例：A4サイズの次はA3)印刷されます。ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。希望の用紙サイズより大きいサイズに印刷されるような場合は、本設定を行ってください。0〜99mmの範囲で設定します。初期値は0mmです。

補足

設定方法については、「第2章 HP-GLモードの設定」を参照してください。

1.2.3　パレットについて

HP-GLモードで出力する場合、パレットの設定をソフトウェアからプリンターに変更し、それぞれのペン属性を設定してください。それぞれのペン属性を設定しないと、パネルのペン属性が有効になりません。

1.3 フォントについて

ここでは、HP-GLエミュレーションから使用できるフォントについて説明します。

1.3.1 使用できるフォント

HP-GLエミュレーションでは、以下のフォントが使用できます。

アウトラインフォント

搭載されているアウトラインフォントは、次のとおりです。

和文

- 平成明朝体W3
- 平成角ゴシック体W5

欧文

- ローマン
- サンセリフ

1.3.2 フォントキャッシュ

高速印刷を実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。
保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、システムリセットをしたりすると、消えます。
フォントキャッシュのためのメモリー容量は、操作パネルから設定することができます。この値は、電源を切っても保持されます。

1.4 排出機能について

排出について説明します。 排出には、次の2種類があります。

- 残ったデータを強制排出する場合 ·································· (1.4.1参照)
- プリンター内のすべてのジョブを排出する場合 ························ (1.4.2参照)

1.4.1 残ったデータを強制排出する場合

HP-GL・HP-GL/2エミュレーションモードでは、1ページ分のデータがすべてそろうまでデータは排出されません。データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなり、ディスプレイには【データマチデス】が表示されます。
強制排出は、このようなときに自動排出時間を待たず、プリンター内のデータを強制的に印刷する操作です。
操作手順は次のとおりです。

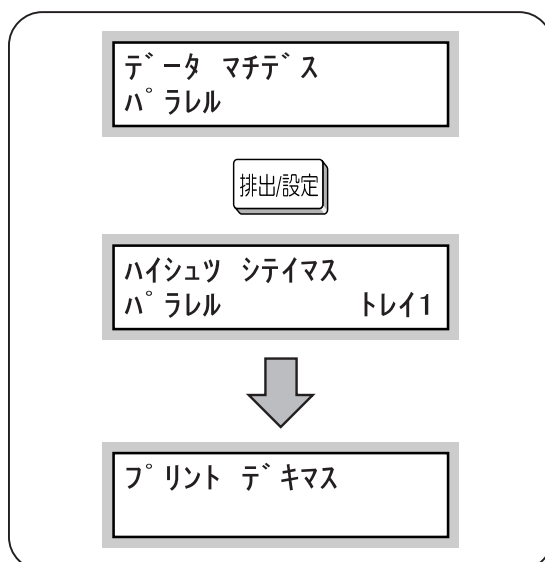
補足

パラレルインターフェイスの場合、ディスプレイに【データマチデス】が表示されているとき、次のジョブを送信すると正常に印刷されない場合があります。
次のジョブは、強制排出後または自動排出時間の経過後、送信してください。

参照

自動排出時間については、『DocuCentre 401/351/251シリーズ取扱説明書(プリンター編)』または『DocuPrint 401取扱説明書』を参照してください。

操作手順

❶ 右図のディスプレイ状態で 排出/設定 を押します。
印刷が開始されます。

印刷が終了すると、【プリント デキマス】の表示になります。

補足

DocuCentre 401/351/251の場合は、【プリント／ソウシン デキマス】の表示になります。

注記

プリントモードシテイが【Auto】の場合、「データ マチデス」と表示されないため、強制排出できません。

1.4.2　プリンター内のすべてのジョブを排出する場合

プリンターに受信されているすべてのジョブを実行して印刷します。
この操作によって、データの受信を中断し、バッファを空の状態にすることができます。
次に手順を説明します。

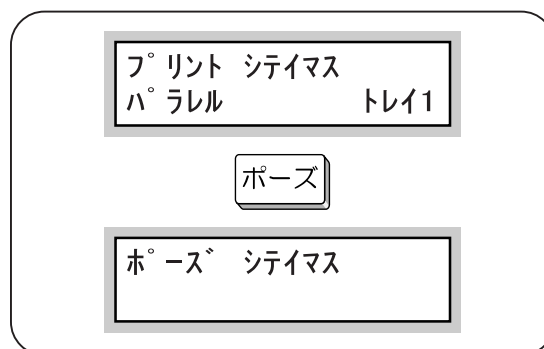
参照

プリンター内のすべてのジョブを消去する方法もあります。消去する方法については、『DocuCentre 401/351/251シリーズ取扱説明書（プリンター編）』または『DocuPrint 401取扱説明書』を参照してください。

操作手順

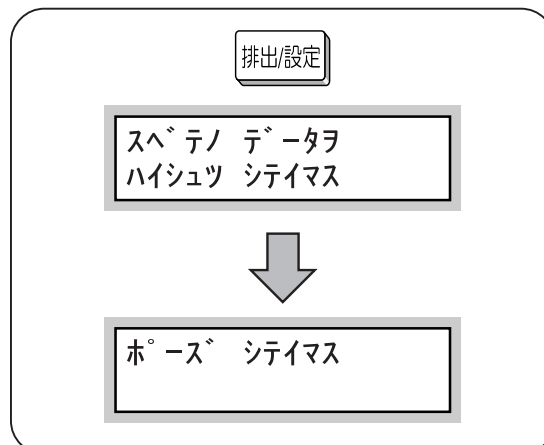
❶ 右図のディスプレイ状態で[ポーズ]を押します。
ポーズ状態になります。

補足

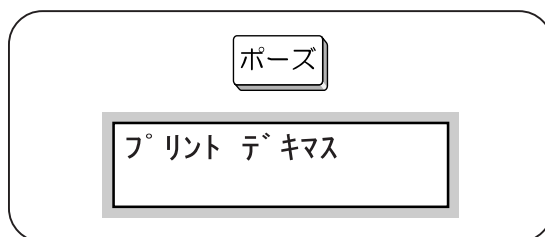
[ポーズ]を押すと、プリンターは自動的にデータの受信ができない状態となります。

❷ [排出/設定]を押します。
印刷が開始されます。

すべてのジョブを実行して印刷すると、【ポーズ シテイマス】の表示になります。

補足

パラレルインターフェイスの場合、手順❶の[ポーズ]を押すタイミングによって、データ受信がジョブの途中になることがあります。この場合、それ以降のデータは[排出/設定]を押したあと、新しいジョブとして認識され、手順❸のポーズ解除後、新しいジョブとして処理されます。

❸ ポーズを押します。
【プリント デキマス】の表示になります。

補足

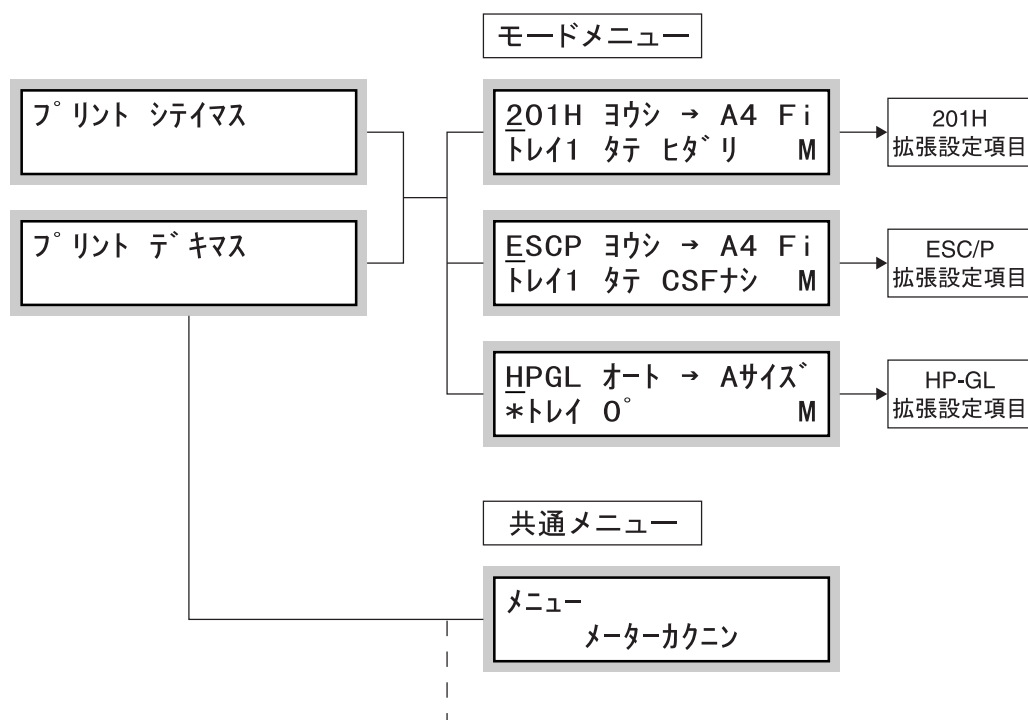
ここでのポーズ解除後、上記の新しいジョブとして処理されるデータは、共通メニューのプリントモード指定で【AUTO】が設定されているとき、正常に印刷されない場合があります。

HP-GLモードの設定

2.1 モードメニューについて

メニューの種類およびエミュレーションモードメニューの階層について説明します。

2.1.1 DocuCentre 401/351/251およびDocuPrint 401のメニュー

メニューには、エミュレーション関連を設定する「モードメニュー」と、エミュレーション以外のプリンターの機能を設定する「共通メニュー」があります。

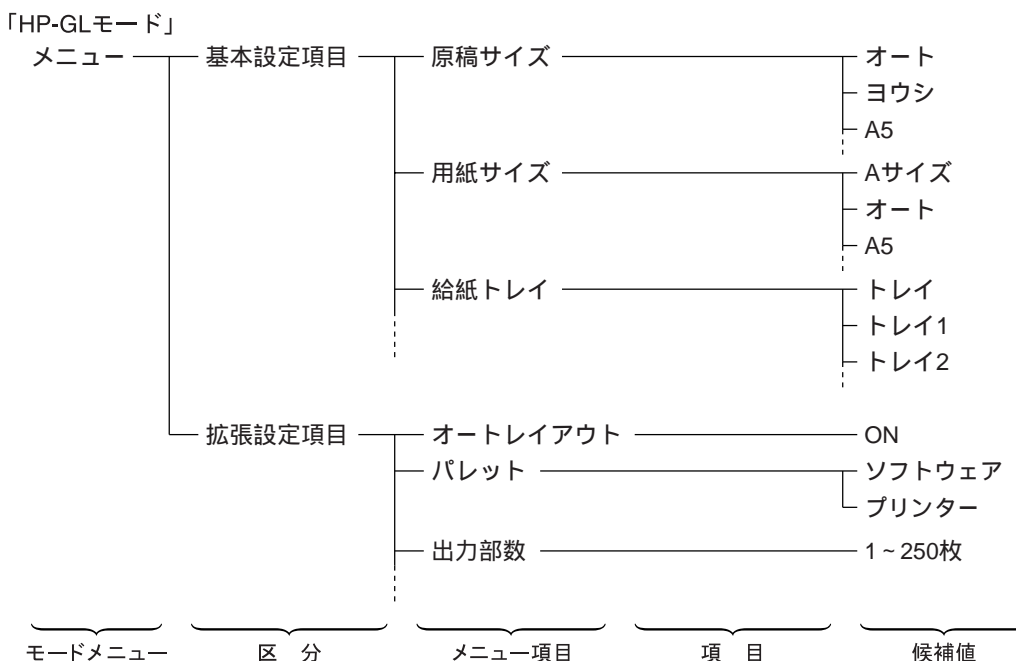
補足

- DocuCentre 401/351/251では、【プリント／ソウシン デキマス】と表示されます。
- DocuCentre 401/351/251では、【メーターカクニン】は表示されません。

2.1.2　モードメニューについて

HP-GLモードメニューは、HP-GL・HP-GL/2で構成されています。エミュレーションごとに固有な設定をするためのメニューです。
モードメニューの設定内容を印刷中に変更することができます。この場合、変更された設定は、次のジョブから反映されます。
モードメニューは、次のような階層で構成されています。

- モードメニュー＞区分＞メニュー項目＞項目＞候補値

補足

- **項目のないメニュー項目もあります。**
- **項目は「項目1」「項目2」「項目3」に分けられる場合があります。（以降、とくに断らないかぎり「項目」と呼びます。）**

上記の図は、HP-GLモードメニューの階層の一部を表したものです。

基本設定項目

基本設定項目は、原稿や用紙のサイズ、倍率など、モードメニューを選択したときに最初に表示される項目です。

拡張設定項目

拡張設定項目は、エミュレーション特有の条件をさらに細かく設定する項目です。

参照

HP-GLモードメニューで設定できる項目および操作は、「2.2　HP-GLモードメニューの設定」を参照してください。

2.2 HP-GLモードメニューの設定

この節では、HP-GLモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

2.2.1 HP-GLモード設定項目一覧

HP-GLモードメニューで設定できる項目について説明します。

基本設定項目

原稿サイズ　*補足(1)

ホスト装置で作成された原稿のサイズを設定します。
候補値は次のとおりです。
【オート】（初期値）
入力されたデータから、原稿サイズを自動判定します。
【ヨウシ】
用紙サイズで指定したサイズと同じサイズになります。
【A５】【B５】【A４】【B４】【A３】【B３】【A２】【B２】【A１】【B１】【A０】【B０】
印字制御のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。

補足

【オート】以外を選択すると、拡張設定項目のオートレイアウトの設定は【OFF】になります。

用紙サイズ　*注記(1)、*補足(1),(2)

出力する用紙のサイズを設定します。設定できる用紙はカット紙のみです。
候補値は次のとおりです。

■給紙トレイが【＊トレイ】(自動)のとき

【Aサイズ】(初期値)【オート】【A５】【B５】【A４】【B４】【A３】【＊＊】(サイズ不明)

補足

【Aサイズ】、または【オート】を選択した場合は、次のように設定されます。
原稿サイズを【オート】以外に設定すると、【A３】になります。給紙トレイを【トレイ１】～【トレイ４】に設定すると、選択された給紙トレイの用紙サイズになります。

給紙トレイ　*注記(2)、*補足(3),(7)

用紙を給紙するトレイを設定します。
候補値は次のとおりです。
【＊トレイ】(初期値)
「用紙サイズ」で設定した用紙がセットされている用紙トレイを探し出し、そこから自動給紙します。ただし、【テザシ】(手差しトレイ)は自動給紙の対象になりません。
【トレイ１】【トレイ２】【トレイ３】【トレイ４】【テザシ】

座標回転

印刷するときの用紙方向を設定します。
候補値は次のとおりです。
【０°】(初期値)
用紙を横長に設定します。
【９０°】
用紙を縦長に設定します。

メモリー設定　*注記(3)

NVメモリー(No.01～05)に設定内容を登録し、必要に応じて呼び出すことができます。

■立ち上げメモリ

立ち上げメモリーとは、あらかじめ「メモリ登録」で登録しておいたNVメモリー(No.01～05)を電源投入時、システムリセット時、PDLリセット時などに読み出すことです。
ここでは、読み出すNVメモリーのNo.を設定します。
初期値は【Ｎｏ．００コウジョウ】で、工場出荷時の設定内容を読み出して立ち上げます。

■メモリ呼び出し

あらかじめ登録されている設定内容を呼び出す機能です。
呼び出すメモリーのNo.を設定します。
初期値は【Ｎｏ．００コウジョウ】で、工場出荷時の設定内容を呼び出します。

■メモリ登録

メモリーには、工場出荷時の設定内容を記憶しているROMと、ユーザーが設定内容を保存することができるNVメモリー(No.01～No.05)があります。
メモリー登録では、NVメモリー(No.01～No.05)にあらかじめ設定した各モードメニューの各種設定内容をひとまとめにし、登録します。
登録しておくことによって、各モードメニューの設定内容を簡単に呼び出したり、電源投入時に、毎回同じ設定を繰り返す必要がなくなります。
登録した設定内容は、NVメモリーの初期化またはメモリー削除を行うまで保持されます。

■メモリ削除

NVメモリーに登録した設定内容を削除します。
ここでは、削除するメモリーのNo.を設定します。

拡張設定項目

オートレイアウト

オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。
候補値は次のとおりです。
【ＯＮ】（初期値）
【ＯＦＦ】

補足

【ON】は、原稿サイズで【オート】が選択されている場合にだけ表示されます。

パレット

使用するパレットを設定します。
候補値は次のとおりです。
【ソフトウェア】（初期値）
【プリンター】

排出先トレイ　*注記(9)

用紙の排出先を設定します。
この項目は、両面印刷モジュールまたはメールボックスが装着されているとき表示されます。
候補値は次のとおりです。
【センタートレイ】(初期値)
片面印刷時は印刷面を下にして出力します。
【サイドトレイ】
片面印刷時は印刷面を上にして出力します。
【メールボックスｘビン】
片面印刷時はメールボックスの指定したビンに、印刷面を下にして出力します。
【スタッカートレイｘビン】
片面印刷時はスタッカートレイの指定したビンに、印刷面を下にして出力します。

出力部数　*注記(4)

出力する部数を設定します。
設定できる範囲は、1(初期値)～250部です。

部数指定方法

印刷する部数の指定方法を設定します。
候補値は次のとおりです。
【プロトコル】（初期値）
【パネル】
【コマンド】

両面

両面印刷を設定します。
この項目は、両面ユニットを装着している場合に表示されます。
候補値は次のとおりです。
【シナイ】(初期値)
両面印刷を行いません。
【サユウビラキ】
左右開きになるように印刷します。
【ジョウゲビラキ】
上下開きになるように印刷します。

フォント　*参照(1)

■漢字書体

2バイト系文字(漢字)の書体を【ストローク】(初期値)、【明朝体】、【ゴシック体】の中から設定します。なお、2バイト系半角文字もこの書体が適用されます。

■英数字書体

1バイト系文字(ANK)の書体を【ストローク】(初期値)、【ローマン】、【サンセリフ】の中から設定します。

位置補正　*補足(4), (5)

ハードクリップエリアを移動させる機能です。縦横ともに－250～250mmまで1mm単位で設定できます。

■上下方向

－250～250mmの範囲で、1mm刻みに設定できます。初期値は【シナイ】です。

↓前ページより

■左右方向

－250～250mmの範囲で、1mm刻みに設定できます。初期値は【シナイ】です。

印字制御

■HPGLモード

グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GLコマンドのIW、OW、UCコマンドに影響します。

候補値は次のとおりです。

【ＨＰ－ＧＬ】(初期値)

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTLを使用できます。送られてくる印刷データによって自動で各言語を切り替えます。

【ＨＰ－ＧＬ／２】

HP-GL/2、HP-RTLを使用できます。

■ハードクリップ

ハードクリップエリアの大きさを設定します。

HP-GLモードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。

候補値は次のとおりです。

【ヨウシ】(初期値)

用紙と同じサイズをハードクリップエリアとします。ただし、実際に印字できる範囲は、プリンターの印字可能エリアと同じです。

【ヒョウジュン】

本プリンターの印字可能エリアをハードクリップエリアとします。

■排出コマンド

描画の終了を示すコマンド(ＳＰ、ＳＰ０、ＮＲ、ＦＲ、ＰＧ、ＡＦ、ＡＨ)を設定します。ここで指定したコマンドを受信すると、描画を終了し、用紙が排出されます。工場出荷時は、SP0以外のコマンドは【ＯＦＦ】に設定されています。

補足

複数のコマンドが指定された場合は、どれか1つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。

■スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大/縮小(スケーリング)するかを設定します。

【ＯＮ】(初期値)

スケーリングします。

【ＯＦＦ】

スケーリングしません。プリントデータは、等倍(100%)で印刷されます。この場合、用紙サイズ内にプリントデータが入りきらないことがあります。

↓次ページへ

印字制御

↓前ページより

■スケールモード

オートスケール実行時の原稿サイズを、A系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5の6種類）とするか、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。
候補値は次のとおりです。
【ヨウシサイズ】（初期値）
原稿サイズは、A系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5の6種類）の中から自動的に選択されます。
【ザヒョウエリア】
原稿サイズは、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアから、ページマージンを差し引いたエリアとします。

補足

【ザヒョウエリア】は、オートレイアウトが【ＯＮ】の場合だけ設定できます。【ＯＦＦ】の場合は、【ヨウシサイズ】になります。

■エリア判定モード

オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。
候補値は次のとおりです。
【ＡＵＴＯ】（初期値）
有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adaptedの中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS＞IW＞IP＞Adaptedとなります。
【ＰＳ】
データ中の最初のPSコマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中にPSコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。
【ＩＷ】
データ中の最後のIWコマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中にIWコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。
【ＩＰ】
データ中のすべてのIPコマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中にIPコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。
【Ａｄａｐｔｅｄ】
以下の条件から有効座標エリアを決定します。
- 描画を行うコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

■ペーパーマージン　*補足（4）

オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。
0～99mmの範囲で、1mm刻みに設定できます。初期値は【０mm】です。

■イメージエンハンスメント

イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。
イメージエンハンスメントとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。
候補値は次のとおりです。
【ＯＮ】（初期値）
【ＯＦＦ】

↓次ページへ

印字制御

↓前ページより

■**解像度**

印刷時の解像度を600dpi(初期値)か400dpiに設定します。

注記

スケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定は、原稿サイズが【オート】の場合に有効となります。

ペン属性

16本のペン(【Ｎｏ．００】～【Ｎｏ．１５】)の属性を設定します。
作図する線の太さや色を設定できます。

■**幅**　***補足(4)**

ペンの幅(太さ)を設定します。ペンの幅は、0.0～25.5mmの範囲で、0.1mm刻みに設定できます。初期値は【0.3mm】です。

補足

- **原稿サイズと用紙サイズの組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小0.1mmまで縮小します。**
- **線の幅は線の中心から太くなります。**
- **太さが0.0mmの場合は、何も描画されません。**

■**終端**

ペンの終端を設定します。

【セツダン】(初期値)

•：座標指定位置

【クケイ】

•：座標指定位置

【マルメ】

•：座標指定位置

■**連結**

ペンの線を接続した場合の処理を設定します。

【ナシ】(初期値)　【コウサ】

【マルメ】　【セツダン】

補足

- **【ナシ】は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。**
- **シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定するHP-GLコマンドです。**

↓次ページへ

ペン属性

↓前ページより

■グレー *補足(4)

ペンの濃度を設定します。0～100%の範囲で5%単位で設定します。
No.00は【0】、No.01～15は【100】が初期値です。
数値が小さくなるほど濃度が薄くなります。

補足

ペン属性と文字書体の関係は次のとおりです。

書体 / ペン属性	ストローク	明朝、ゴシック、ローマン、サンセリフ
ペン幅	有効	無効
終端処理	有効	無効
連結処理	無効	
カラー	有効	

PDLリセット *注記(13)、*補足(12)、*参照(2)

エミュレーションモードごとに個別のリセット処理を行います。
リセット処理を行ったエミュレーションモードメニューの設定内容は「立ち上げメモリー」の値となります。
初期値は、リセット処理を行わないよう【シナイ】に設定されています。

*注記 (1)
- 「給紙トレイ」で【＊トレイ】を設定している場合、「用紙サイズ」で【ＰＣ】を設定できません。
- 「給紙トレイ」で【トレイ１】～【トレイ４】のどれかを指定しているとき「用紙サイズ」の設定はできません。
- 「給紙トレイ」で【テザシ】を設定すると、両面印刷の設定が無効(【シナイ】)に変更されます。

(2)
- 【トレイ１】～【トレイ４】を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。
- 【テザシ】を指定した場合、◀を押してカーソル(_)を「用紙サイズ」の位置へ移動し、▲または▼を押して手差しサイズを選択してください。
- 【テザシ】を指定した場合、サイズの違いが確認されると操作パネルに指定用紙サイズの要求メッセージが出ます。
- 手差しトレイから給紙した場合、メールボックス機能は使用できません。
- 【トレイ２】～【トレイ４】は、トレイ2～4を装着していないと表示されません。

(3) メモリーに設定内容が登録されていない場合、【Ｎｏ．０１】～【Ｎｏ．０５】は表示されません。

(4)
- ホスト装置から出力部数の指定があった場合、その値が反映されて印刷されます。印刷後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。
- NetWare、lpdポートから指定された部数は、印刷後、操作パネルへの書き換えは行われません。

(5) 処理中のジョブに対してPDLリセットを行った場合、そのジョブの処理は中止されデータは消去されます。

*補足（1） 原稿サイズと用紙サイズの組み合わせによって、倍率符号が【？】となることがあります。この場合、原稿は等倍で印刷されます。

（2） 次のようなとき、候補値として【＊＊】が表示されます。

- 「給紙トレイ」で【トレイ１】〜【トレイ４】のどかを指定し、かつそのトレイに用紙カセットが装着されていないとき
- 「給紙トレイ」で【トレイ１】〜【トレイ４】のどれかを指定し、かつその用紙トレイに故障が発生したとき
- 「給紙トレイ」で【トレイ２】〜【トレイ４】のどれかを指定し、かつそのトレイにA5用紙がセットされているとき

（3） 【＊トレイ】を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ1→トレイ2→トレイ3→トレイ4の順に給紙されます。DocuCentre 401/351/251ではトレイ4が、DocuPrint 401ではトレイ2〜4が、オプションです。

（4） ▲または▼で候補値を変更するとき、キーを押し続けることにより連続的に表示を変えることができます。また、▲と▼を同時に押すと、初期値に戻ります（ただし、HPGLモード＞ペン属性＞幅の場合は0.0mm）。

（5） 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。
また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。

（6）
- 【スル】を設定後、モードを押すまでにPDLリセットを行うエミュレーションモードのメニュー設定を行っても、その設定内容は反映されません。
- リセット処理後の候補値は【シナイ】に戻ります。

（7） DocuCentre 401/351/251ではトレイ4が、DocuPrint 401ではトレイ2〜4が、オプションです。

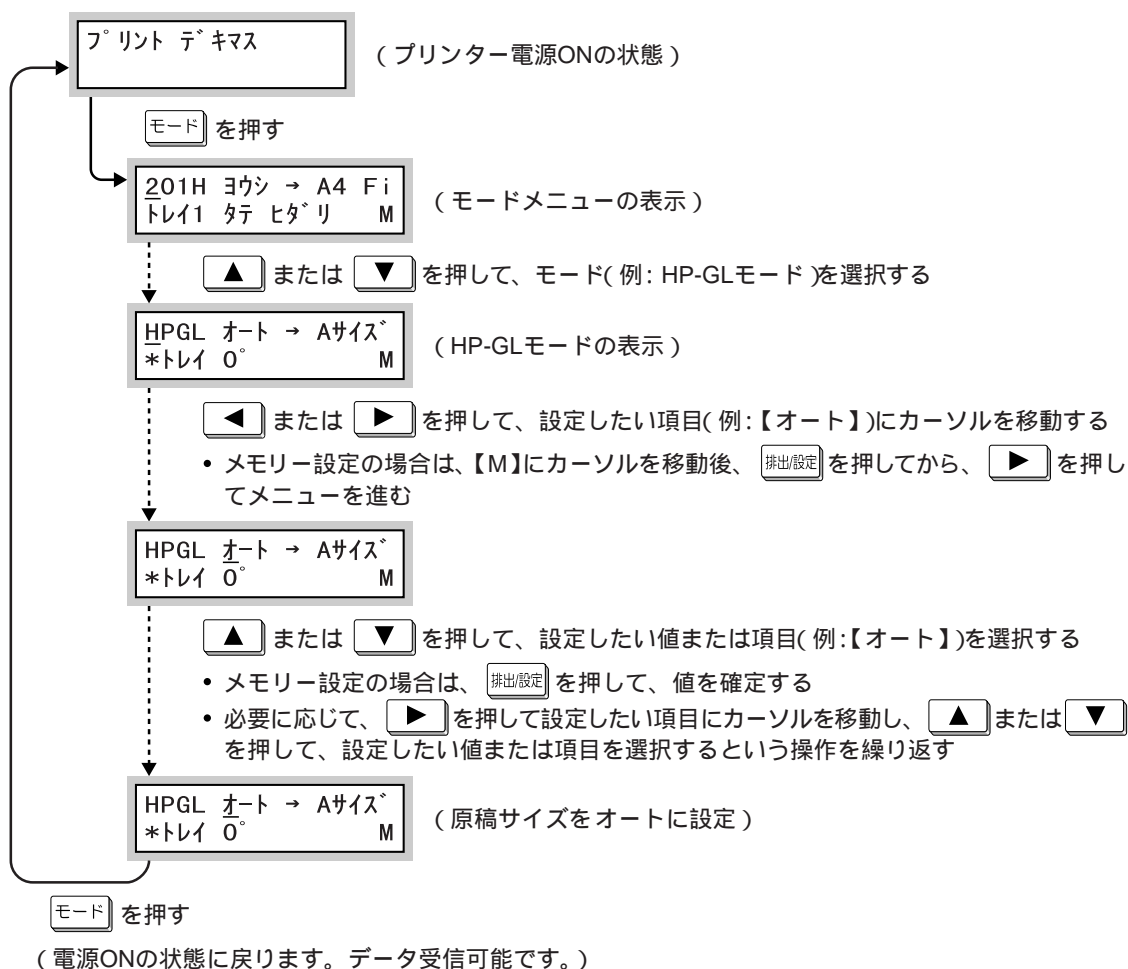
*参照（1） フォントについては「1.3　フォントについて」を参照してください。

（2） リセット処理の内容一覧についてはモードの関連資料を参照してください。

2.2.2 HP-GLモードメニューの設定方法

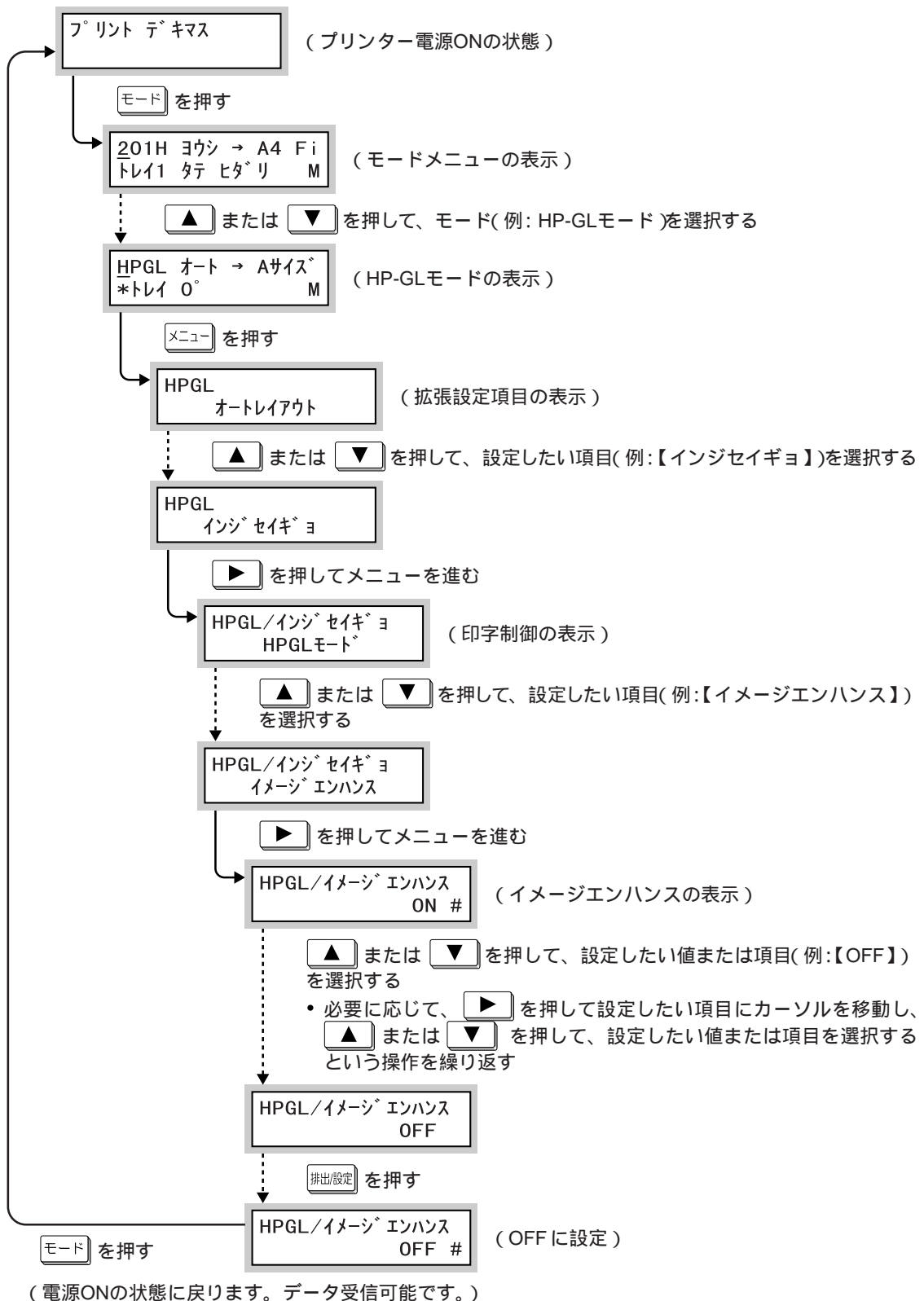
モードメニューの設定方法は、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

モードメニュー(基本設定項目)の設定方法について、HP-GLモードの原稿サイズをA3サイズに設定する場合を例にとって説明します。

拡張設定項目

モードメニュー(拡張設定項目)の設定方法について、HP-GLモードのイメージエンハンスをOFFに設定する場合を例にとって説明します。

HP-GLモードの設定

2

2.3 HP-GLモード設定リストについて

HP-GLモードでの項目の設定値を設定リストで確認できます。ここでは、HP-GL・HP-GL/2モード設定リストについて説明します。

2.3.1 HP-GL・HP-GL/2モード設定リスト

HP-GL・HP-GL/2モードでの設定リストには、以下の項目が記載されています。

- HP-GL/2設定リスト

HP-GL/2®設定リスト

プリント総ページ数	バージョン
432ページ	0.3.10

書式設定

項目	設定値
原稿サイズ	自動
用紙サイズ	Aサイズ
給紙トレイ	＊トレイ（自動）
オートレイアウト	ON
座標回転	0°
パレット	ソフトウエア
位置補正	
上下方向	しない
左右方向	しない
両面	しない
排紙トレイ	センタートレイ

フォント

項目	設定値
漢字書体	ストローク
英数字書体	ストローク

印字制御

項目	設定値
HP-GLモード	HP-GL
解像度	600dpi
ハードクリップ	用紙
イメージエンハンスメント	ON
排出コマンド	SP0
出力部数	1部
優先出力部数指定	プロトコル指定
スケール	ON
スケールモード	用紙サイズ
エリア判定モード	自動
ペーパーマージン	0mm
ログプリント	する

ペン属性

No.	幅(mm)	終端	連結	グレー
0	0.3	切断	なし	0
1	0.3	切断	なし	100
2	0.3	切断	なし	100
3	0.3	切断	なし	100
4	0.3	切断	なし	100
5	0.3	切断	なし	100
6	0.3	切断	なし	100
7	0.3	切断	なし	100
8	0.3	切断	なし	100
9	0.3	切断	なし	100
10	0.3	切断	なし	100
11	0.3	切断	なし	100
12	0.3	切断	なし	100
13	0.3	切断	なし	100
14	0.3	切断	なし	100
15	0.3	切断	なし	100

メモリー登録一覧

＊工場出荷時の設定

No.	状態
No.1	『未登録』
No.2	『未登録』
No.3	『未登録』
No.4	『未登録』
No.5	『未登録』

2000/11/7 14:06:27
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX

補足

その他のリスト/レポートについては、『DocuCentre 401/351/251シリーズ取扱説明書（プリンター編）』または『DocuPrint 401取扱説明書』を参照してください。

2.3.2 プリント方法

リスト/レポートの印刷方法は、『DocuCentre 401/351/251シリーズ取扱説明書（プリンター編）』または『DocuPrint 401取扱説明書』を参照してください。

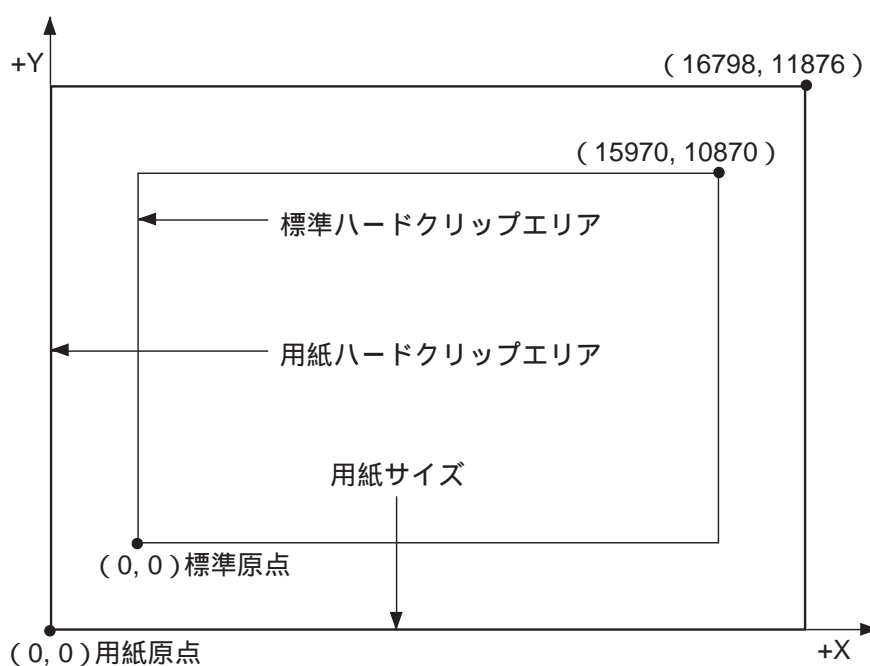
HP-GLモード関連資料

3.1 ハードクリップエリア

HP-GLモードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選択します。

- **標準**
  本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。
- **用紙**
  用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内のみとなります。

ハードクリップエリアの設定は、 HP-GLエミュレーションモード設定 またはハードクリップの指定コマンド&Iで行うことができます。

下図の座標値は、A3サイズで原点が左下(HP-GLでオートレイアウト時)に設定されている場合です。

3.2 印刷可能エリア

HP-GLモードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

用紙サイズと印刷可能エリア

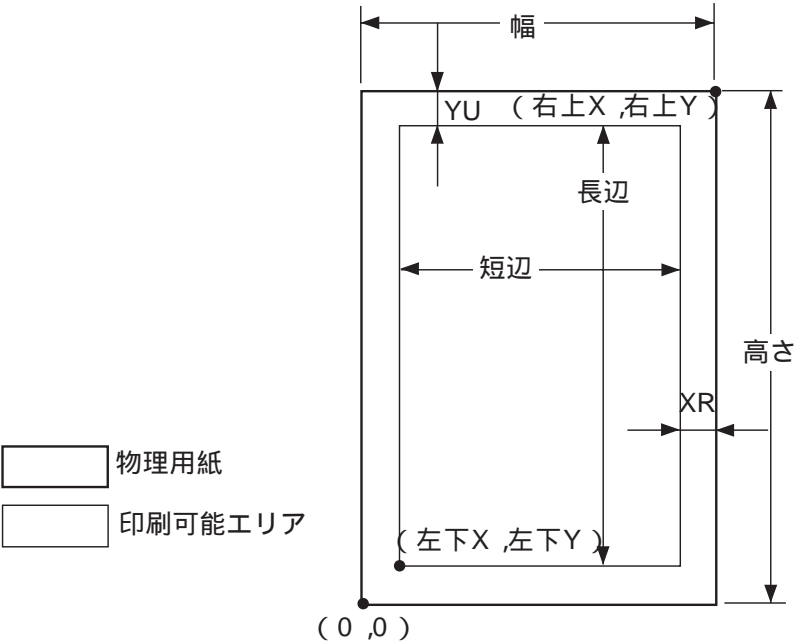
用紙サイズ	用紙長 (1/7200インチ)		座標値 (1/7200インチ)							
	X方向	Y方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下X	左下Y	長辺	短辺	右上X	右上Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足

HP-GLエミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5の5種類です。

<table>
<tr><th rowspan="3">用紙サイズ</th><th colspan="2">用紙長
(1/7200インチ)</th><th colspan="8">座標値
(1/7200インチ)</th></tr>
<tr><th>X方向</th><th>Y方向</th><th colspan="2">マージン</th><th colspan="2">印刷可能エリア</th><th colspan="2">右上端</th><th colspan="2">マージン</th></tr>
<tr><th>幅</th><th>高さ</th><th>左下X</th><th>左下Y</th><th>長辺</th><th>短辺</th><th>右上X</th><th>右上Y</th><th>XR</th><th>YU</th></tr>
<tr><td>A3</td><td>84168</td><td>119052</td><td>1260</td><td>1260</td><td>81648</td><td>116532</td><td>82908</td><td>117792</td><td>1260</td><td>1260</td></tr>
<tr><td>A4</td><td>59508</td><td>84168</td><td>1260</td><td>1260</td><td>56988</td><td>81648</td><td>58248</td><td>82908</td><td>1260</td><td>1260</td></tr>
<tr><td>A5</td><td>41940</td><td>59508</td><td>1260</td><td>1260</td><td>39420</td><td>56988</td><td>40680</td><td>58248</td><td>1260</td><td>1260</td></tr>
<tr><td>B4</td><td>72828</td><td>103176</td><td>1260</td><td>1260</td><td>70308</td><td>100656</td><td>71568</td><td>101916</td><td>1260</td><td>1260</td></tr>
<tr><td>B5</td><td>51588</td><td>72828</td><td>1260</td><td>1260</td><td>49068</td><td>70308</td><td>50328</td><td>71568</td><td>1260</td><td>1260</td></tr>
</table>

補足

HP-GLエミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5の5種類です。

3.3 リセット時の状態一覧

ここでは、次のリセット処理によってモードメニュー項目の設定内容がどのような状態になるのかを示します。

- 電源ON、または操作パネルからのシステムリセット
- インプット・プライム信号対応（パラレルインターフェイス）

初期化内容	電源ONまたはシステムリセット	PDLリセット	インプット・プライム信号
原稿サイズ	立ち上げメモリー	同左	同左
用紙サイズ	立ち上げメモリー	同左	同左
給紙トレイ	立ち上げメモリー	同左	同左
座標回転	立ち上げメモリー	同左	同左
オートレイアウト	立ち上げメモリー	同左	同左
出力部数	立ち上げメモリー	同左	同左
部数指定方法	立ち上げメモリー	同左	同左
排出先トレイ	立ち上げメモリー	同左	同左
両面	立ち上げメモリー	同左	同左
漢字書体	立ち上げメモリー	同左	同左
英数字書体	立ち上げメモリー	同左	同左
位置補正	立ち上げメモリー	同左	同左
HP-GLモード	立ち上げメモリー	同左	同左
ハードクリップ	立ち上げメモリー	同左	同左
排出コマンド	立ち上げメモリー	同左	同左
スケール	立ち上げメモリー	同左	同左
スケールモード	立ち上げメモリー	同左	同左
エリアハンテイモード	立ち上げメモリー	同左	同左
ペーパーマージン	立ち上げメモリー	同左	同左
イメージエンハンスメント	立ち上げメモリー	同左	同左
ペン幅	立ち上げメモリー	同左	同左
ペン終端	立ち上げメモリー	同左	同左
ペン連結	立ち上げメモリー	同左	同左
グレー	立ち上げメモリー	同左	同左

参照

「立ち上げメモリー」については、「2.2　HP-GLモードメニューの設定」を参照してください。

3.4 オートレイアウト

ここでは、オートレイアウトについて説明します。

3.4.1 オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力されたHP-GLデータをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GLモードで印刷できます。
オートレイアウトの指定はすべてプリンターの操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

3.4.2 オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、プリンターの操作パネルを使って次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを【オート】に設定します。初期値は、【オート】です。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを【ON】に設定します。初期値は、【ON】です。
- スケールを【ON】に設定します。初期値は、【ON】です。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。初期値は、【オート】です。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。初期値は、【0mm】です。
- スケールモードを設定します。初期値は、【ヨウシサイズ】です。

3.4.3 設定項目の詳細

各項目の詳細は、次のとおりです。

原稿サイズ

モードボタンを押し、原稿サイズで【オート】を選択すると、オートレイアウトの設定を【ON】にできるようになります。

オートレイアウト

モードボタンを押したあと、メニューボタンを押し、オートレイアウトの設定を【ON】に設定します。【ON】に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小(スケーリング)するかどうかを設定します。

エリア判定モード

HP-GLデータをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

【オート】

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adaptedの中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS＞IW＞IP＞Adaptedとなります。

【IW】

データ中の最後のIWコマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中にIWコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【IP】

データ中のすべてのIPコマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中にIPコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【Adapted】

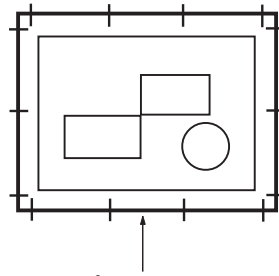
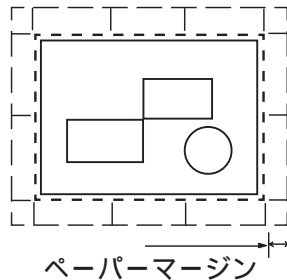
以下の条件から有効座標エリアを決定します。

- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

【PS】

データ中の最初にPSコマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中にPSコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

ペーパーマージン

0〜99mmの範囲で設定します。初期値は0mmです。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。

ハードクリップを超えるため描画されない

［＿］エリア判定モードで求めたエリア

［- -］エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選択します。また、有効座標エリアから横置きまたは縦置きの判断もします。

- **【ザヒョウエリア】の場合**
  エリア判定モードで求めたエリアからページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

- **【ヨウシサイズ】の場合**
  求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5の6種類）から選択されます。

3.4.4　原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

スケールモードがヨウシサイズの場合

❶ エリア判定モードに従い、入力されたHP-GLデータから有効となる座標エリアを求めます。

❷ ❶で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の1/2のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

❸ ❷で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

❹ ❸で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

スケールモードがザヒョウエリアの場合

❶ エリア判定モードに従い、入力されたHP-GLデータから有効となる座標エリアを求めます。

❷ ❶で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の1/2のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

❸ ❷で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値をひきます。

❹ ❸までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

例:

スケールモード=用紙サイズ、原点位置=オート、ペーパーマージン10mm、エリア判定モード=IPの場合に下記データが入力された場合
　ペン幅設定はすべて0.1mm
　下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP,IWで指定しているエリアはA3物理サイズ

```
IN;
IP-8399,-5938,8399,5938;
IW-8399,-5938,8399,5938;
PU;
SP1;
:
:
SP0;
```


❶ エリア判定モードがIPのためIPコマンドで指定されたエリア **-8399,-5938,8399,5938**を有効座標エリアとします。

❷ 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて0.1mmのためA3サイズのデフォルト文字サイズの高さ/2(75プロッタユニット)のサイズを❶で求めた有効座標エリアに加えます。
❷で求めた有効座標エリア　**-8474,-6013,8474,6013**

❸ ペーパーマージンで設定されている値(10mm=400プロッタユニット)を❷で求めた有効座標エリアから差し引きます。
❸で求めた有効座標エリア　**-8074,-5613,8074,5613**

❹ ❸で求めた有効座標エリアはA4サイズを超えA3サイズのため、原稿サイズはA3と判断されます。
また、ペーパーマージンの設定が0mmだった場合の有効座標エリアは**-8474,-6013,8474,6013**なので、A3サイズを超えA2サイズ以下のため、原稿サイズはA2と判断されます。

3.4.5 用紙サイズの決定方法

操作パネルが次のように設定されている場合の、用紙サイズの決定方法について説明します。

- 原稿サイズ　:オート
- 給紙トレイ　:トレイ(自動)

用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

スケールモードの設定が【ヨウシサイズ】の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合、原稿サイズと同じサイズを選択します。
原稿サイズが候補になったどの用紙サイズより大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙サイズを選択します。
原稿サイズが候補になったどの用紙サイズより小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙サイズを選択します。

候補になる用紙サイズについて:
用紙サイズが【Aサイズ】の場合、A3,A4,A5の3種類の中から、実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補になります。A系列(A3,A4,A5)の用紙がトレイにセットされていない場合は、A3,A4,A5すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、A系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

用紙サイズが【オート】の場合、A3,B4,A4,B5,A5の5種類の中から、実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補になります。A3,B4,A4,B5,A5サイズの用紙がトレイにセットされていない場合は、A3,B4,A4,B5,A5すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

スケールモードが【ザヒョウエリア】の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選択します。
有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズより大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙サイズを選択します。
有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズより小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙サイズを選択します。

候補になる用紙サイズについて:
スケールモードの設定が【ヨウシサイズ】の場合と同じです。

補足

- 操作パネルの原稿サイズが【オート】以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの用紙サイズで設定されている用紙サイズとなります。
- 操作パネルの用紙トレイが【トレイ(自動)】に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

3.4.6 倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定をONにします。OFFの場合は、等倍(100%)で描画されます。

原稿サイズが【オート】、スケールモードが【ヨウシサイズ】の場合

操作パネルのハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- 原稿サイズ＝用紙サイズの場合は、等倍(100%)で描画します。
- 原稿サイズ＞用紙サイズの場合は、縮小して描画します。
- 原稿サイズ＜用紙サイズの場合は、等倍(100%)で描画します。

原稿＼用紙	A3	A4	A5	B4	B5
A0	35	25	100	31	100
A1	50	35	25	43	31
A2	71	50	35	61	43
A3	100	71	50	87	61
A4	100	100	71	100	87
A5	100	141	100	173	100

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

原稿サイズが【オート】、スケールモードが【ザヒョウエリア】の場合

操作パネルのハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。
倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。

単位：プロッターユニット

用紙サイズ	0度				90度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x−P1x	P2y−P1y	P2x−P1x	P2y−P1y	P2x−P1x	P2y−P1y	P2x−P1x	P2y−P1y
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの210.0%、倍率の最小値は、22.5%となります。

3.4.7　オートレイアウト描画時の制限事項

プリンターにハードディスクが装着されている場合

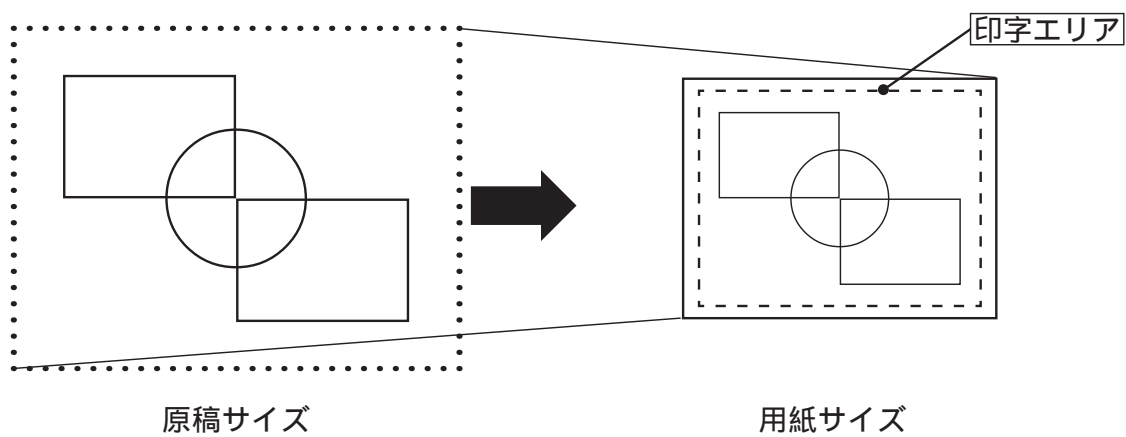
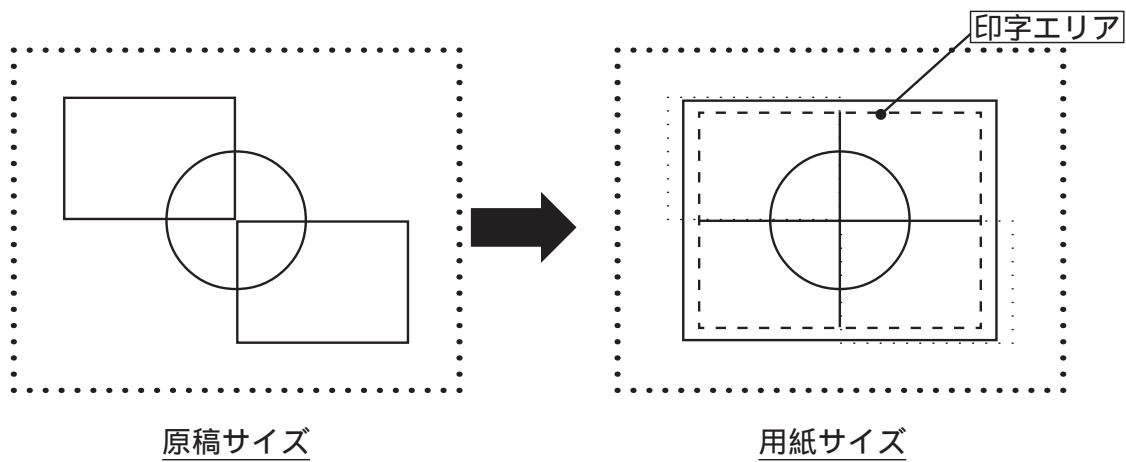
オートレイアウト実行時、プリントデータはハードディスクに格納されます。

プリンターにハードディスクが装着されていない場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはフォームデータメモリーに格納されます。
フォームデータメモリーの初期値は128kbyteです。よって、128kbyte以上のプリントデータを受信した場合、プリンターはエラーとなります。この場合は、プリンターの操作パネルを使ってフォームデータメモリーの容量を変更してください。ただし、フォームデータメモリーの上限は、5120kbyteです。よって、5120kbyte以上のプリントデータを受信することはできません。
オートレイアウト機能を使用する場合は、プリンターにハードディスクを装着することをお勧めします。

3.4.8 各機能組み合わせ例

以下に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

原稿：オート、原点：オート、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON

原稿：オート、原点：オート、スケールモード：用紙サイズ、スケール：OFF

原稿：オート、原点：オート、スケールモード：座標エリア、スケール：ON

原稿：オート、原点：オート、スケールモード：座標エリア、スケール：OFF

索 引

ユ

ヨ

リ

レ

マニュアルコメント用紙

本書をより使いやすいものとするために、皆様からの貴重なご意見(説明不足、間違い、誤字、誤植、ご要望など)をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、マニュアルに関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

• マニュアルの名称	DocuCentre 401/351/251シリーズ DocuPrint 401 HP-GLエミュレーション設定ガイド	• 管理番号	RV-E04

• ご 芳 名		• 貴 社 名	
• 所属部門		• 電話番号	[内線]
• 所 在 地			

• ペ ー ジ	• 行	• 内容へのご指摘/ご要望

• 富士ゼロックス記入欄		
• 記事	• 受付No.	• 受付担当印

4版

[折り込み線]

富士ゼロックス(株)社内メール扱い

[送付先]
HID開発部
マニュアルデザイングループ(KSP) 行

担当社員

事業部 営業所 課 G

氏名

[折り込み線]

切り取り線

- ご記入くださいましたら点線の部分で折り込みホチキスなどでとめたうえ、お買い求めの販売店にお渡しください。
- このままで郵便物として投函なさらないようにご注意ください。

この商品の保守・操作のお問い合わせ先については、本体同梱の
取扱説明書を参照してください。

DocuCentre 401/351/251シリーズ DocuPrint 401　HP-GLエミュレーション設定ガイド

著作者 ― 富士ゼロックス株式会社
発行者 ― 富士ゼロックス株式会社
ドキュメント プロダクト＆サプライ カンパニー
ヒューマンインターフェイスデザイン開発部

発行年月―2001年 2月　第1版
2003年 3月　第4版

(RV-E04)